

## 話題のがん検診

医師 大原紗矢香

今年も残すところあと二か月。今月からは一般の方向けのインフルエンザワクチン接種を始めます。小学生以下は二回、中学生以上は一回の接種になります。ワクチンをうってから実際に効果が出るまで半月から一か月程度かかるため、なるべく年内に接種されることをお勧めしています。

今年には芸能人の「がん」に関するニュースが続いた影響もあり、診察室の中でもご質問をいただくことが増えました。がん検診を初めて受けた、とおっしゃる方も多くいらっしゃいました。

竜王町でも年齢の制限はありますが、胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮頸がんについて検診を実施しています。

「がん検診を受けていますか？」と尋ねると「今は何の症状もないから大丈夫」という答えが返ってくる場合があります。

そもそもがん検診というのは、症状が何もないときに受けるものです。しかし何も症状がないときにやみくもに検査をしても、病気が見つかるわけではありません。がん検診の目的は、病気の早期発見と早期治療にあります。何も症状がない時に調べて病気を探すことをスクリーニングといいますが、スクリーニングが行われるためにはいくつか条件があります。

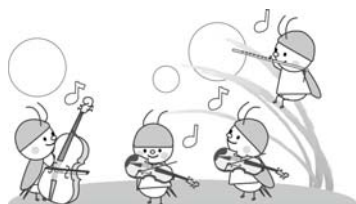


まずは、ある程度よくある病気であること。また、早期に発見した場合に、適切な治療方法があること。何万人に一人というような珍しい病気や、有効な治療方法のない病気は、一般的

に検診の対象とはなりません。検診の年齢が決まっているのも、その病気になりやすい年齢に行うためです。

また、対象となる病気に、潜伏期間や無症状の時期があること。かかってすぐに何か症状の出る病気であれば、症状が出る前を見つけることは難しくなります。

そして、目的となる病気に適切な検査方法があること。この「適切な」という意味には、費用や判定に要する時間も含まれます。集団に行うには費用が高すぎる検査や、結果の判定までに長い時間がかかる検査は検診には不向きです。



また、検査に引っかけた後、どのようにしていけばよいかかわっていること。次にどのような検査を受ければいいのか、それをどのくらいの期間で行えばよいのかわからないと、引っかけた方の不安を大きくしてしまうだけになります。

最後に、私がいちばん大切だと思うのは、検査をする意味や目的が、受ける方にとってわかりやすく解していただけです。残念ながら検診を受けていても病気が見つからないこともあります。検査の限界も知っていただき、何か症状が見られるときにはかかりつけの医療機関に相談するための受診をお願いします。

体調に変化がない時にでも定期的に受けることに価値があります。一度受けたからもう大丈夫、というものではありません。今年受けた方はぜひ続けて受けるようにしましょう。今年はまだ受けていないという方は市町村からのお知らせを確認したり、担当医にご相談ください。

## 「私のつぶやき」

看護師 宮井 由里子

診察の時に、「抗生物質は出してもらえないでしょうか」、「この前の薬に、抗生物質が入ってなかったのですか」と、よく耳にします。一般的なウイルス感染には、抗生物質は効果がありません。ウイルスの中でも、インフルエンザや带状疱疹などには抗ウイルス薬はあります。インフルエンザの抗ウイルス薬は、ウイルスを消失させる薬ではなく、増殖するのをおさえる薬です。一般的なウイルス感染を言いましたが、感冒と言われるものがその代表です。鼻水、咳にはそれぞれの症状にあったお薬があります。一説によると、咳はウイルスの死骸を外に出す生理的な反応といわれ、無理に止めない方がよいという考え方もあります。でも、日常生活において咳が辛くては困りますよね。そういう時は、医師に相談して適した薬を処方してもらいましょう。

では抗生物質は、どういう時に服用するのでしょうか。ひと言で言うと、細菌・ばい菌の感染の時です。耳で細菌が悪さをしたら中耳炎、喉では咽頭炎・扁桃炎、鼻では副鼻腔炎と、体の場所によって名前が変わります。医師の診断により、効果のある抗生物質が処方されます。「前にもらって残っていたのをのんだ」と話される方もあります。抗生物質は、医師の処方通りの用法で服用することが大切で、例えば五日分処方されたら、症状が治まっても五日分はしっかり内服して下さい。中途半端な服用は効果もない上に、体の中に耐性菌をつくってしまう事もあります。



※耐性…病原菌などが、環境条件や一定の薬物に耐えて生き残る性質)

体には、ホメオスタシスというものがあります。健康を維持するために、体を元の状態に戻そうとする働きのことを言います。

例えば暑くなったら、体は汗をかき体温を下げようとします。寒くなると、血管が収縮して体から熱が出ないようにするという働きです。体の中にウ

イルスが入ってきたら、それと戦うために白血球などが戦いにいどみ、発熱という症状がでます。ということ、発熱もホメオスタシスのひとつとも言えます。

しかし、高熱で辛いのも嫌なので、そういう時は解熱剤を使用し体温を少し下げます。少し楽になったところで水分をとり、栄養のあるものを食べ、体をしっかり休ませる事は、とても大切な事だと思います。

普段からバランスの良い食事、適度な運動、休息、ストレス解消、そして日光にあたり、ホメオスタシスが十分に働く体を作るよう心がけましょう。そして、体調が崩れた時は、医師の処方された薬を正しく服用しましょう。

### ※お知らせ

#### インフルエンザの予防接種について

インフルエンザワクチンの接種を開始しております。詳細は、別紙及び当院ホームページでお知らせしておりますのでご覧下さい。

#### 年末年始のお休みについて

年末年始の休診は左記の日程とさせていただきます。予めご理解お願い致します。

十二月二十九日(火) から  
一月三日(日) まで



#### 医師の不在について

左記の日程、都合により各医師が不在となります。ご迷惑をお掛けしますが、予めご理解お願い致します。

十一月七日(土) 雨森院長不在  
十一月十二日(木) 中村医師不在  
十一月十九日(木) 大原医師不在  
十一月二十六日(木) 中村医師不在